



# 一中だより

浜田市立第一中学校学校便り 第7号  
令和5年11月20日(月)

〒697-0024 浜田市黒川町3745  
TEL 0855-22-0946  
FAX 0855-22-0947  
E-mail [dail@hamada.ed.jp](mailto:dail@hamada.ed.jp)



## 「実りの秋」

校長 川田 英樹

木々が色づき、秋の深まりを感じる季節となりました。今年の秋は、暑い日が続き、秋を実感することが短かったように思います。11月は季節の変化を最も感じることでできる月です。高く澄み切った秋晴れの空に思いを馳(は)せたり、紅葉の色づきに自分の気持ちを重ね合わせたりする中で、日本人は、秋のこの季節で収穫への感謝や来年の豊作を祈願してきました。一中の実りの秋を振り返ります。

### < スポーツの秋 >

秋空の下、県中学校駅伝大会が10月25日に三瓶高原クロスカントリーコースで開催されました。女子は20チーム中14位、男子は23チーム中4位でした。男子は3km、女子は3km・2km、アップダウンの険しいコースを走り抜け、タスキをつなぎ、限界まで頑張りました。本校では駅伝部員を全校生徒から募り、夏休みから活動を開始し、浜田市駅伝(男子1位と4位、女子3位と5位)・県駅伝に出場しました。結果はもちろん大切ですが、苦しい練習を耐え抜いた3カ月の道のりを評価し、拍手を贈りたいと思います。走ることは苦しいことから逃げない忍耐力を養い、いざという時の大きな力になります。全校のみなさんで走る事の大切さを共有できることを願っています。

### < 芸術の秋 >

11月2日(木)に石央文化ホールで合唱コンクールを開催しました。たくさんの皆様にご来場いただきありがとうございました。保護者のみなさんから「どのクラスも迫力があって感動しました。」「生徒会企画や背景『贈花』のメッセージ、そして各学級の思いあふれる歌声が心に響きました。」など感想をいただきました。

合唱コンクールは、学級の連帯感・絆を深める学びの場です。練習では、苦労や葛藤の連続だったと思います。本番でみなさんの歌声を聴いて胸がジーンとしたのはなぜでしょう。仲間同士のいざこざや担任の先生の熱い思いなど各学級のドラマ・物語が想像できるからだだと思います。どの学級も心の琴線にふれる合唱を披露してくれて素晴らしい一日となりました。

### < 読書の秋 >

一中では、読書週間に合わせて、担任からのサプライズとして、朝読書の時間に絵本の読み聞かせを行いました。生徒たちは、担任の先生の表情と絵本を食い入るようみで、内容をかみしめていました。

「燈火(灯火)親しむべし」(秋になると涼しくなり、夜も長くなって、「燈火」つまり明かりの下で読書をするのに適しているという意味。)読書は知識や創造力の源泉になります。そして、今の時代失われつつあるもの、静かな心を取り戻し、ものごとを考えることができる効用が、読書にあると思います。少し立ち止まって、心穏やかにページをめくりながら文字を追う。本の扉を開くために図書館を訪れてみてください。

## ♪ 校内合唱コンクール 結果

- 1年生 金賞 1年1組・青空学級、1年4組・潮風学級・若葉学級  
銀賞 1年2組、1年3組  
学年グランプリ 1年1組・青空学級  
指揮者賞 佐々木嘉暖さん(1年1組) 伴奏者賞 山口 葵さん(1年1組)
- 2年生 金賞 2年1組・青空学級・潮風学級・若葉学級、2年3組  
銀賞 2年2組、2年4組  
学年グランプリ 2年3組  
指揮者賞 福永 花音さん(2年4組) 伴奏者賞 東 春花さん(2年3組)
- 3年生 金賞 3年1組・青空学級・若葉学級、3年3組  
銀賞 3年2組、3年4組  
学年グランプリ 3年1組・青空学級・若葉学級  
指揮者賞 東 知希さん(3年1組) 伴奏者賞 大畑 綾香さん(3年1組)
- コンクール大賞 3年1組・青空学級・若葉学級

## ～校内合唱コンクールを終えて～

1年1組 佐々木嘉暖（指揮者）

私たちの合唱「旅立ちの時～Asian Dream Song～」は、ユニゾンから三部に分かれて合唱する部分で、最初は他のパートにつられることがありました。しかし、何度か練習していくうちに、全員が自分のパートの音をきちんととれるようになり、すごいと思いました。放課後練習が始まると、準備や片づけを協力して行うなど一人ひとりのやる気が高まり、団結してきたなあと感じました。練習では、どんなことを意識して歌えばよいのかをみんなで伝えあいました。学級での最後の練習は、高い目標を目指して本気で歌いました。そして、本番のステージで全員が練習の成果を発揮して堂々と歌い、ホールに私たちの歌声を響かせることができました。みんなで団結して歌うことができて嬉しかったです。



2年3組 村上 大翔（指揮者）

私たちが学年グランプリをとるために頑張っていたことは、「声を出すこと」と「他のパートにつられないこと」、そして「音をしっかりと延ばす」ことです。はじめはなかなか延ばすことができませんでした。練習を重ねるたびによく声を出せるようになったり、三つのパートがしっかりと聞こえるようになっていたりして、音がしっかりと伸びるようになっていきました。また、学年グランプリを目指し、昼休みを使って歌詞にどのようかポイントを書いたり、放課後練習のメニューを考えたりしました。そして、放課後練習では、通し練習の後で指揮者、伴奏者、パートリーダーがアドバイスをするなど改善点を出し合い、合唱をより良くしていきました。みんなで協力してグランプリをとれたので嬉しいです。



3年1組 大畑 綾香（ピアノ）

私たち3年1組は、「群青」を歌いました。この歌には、東日本大震災でバラバラになった福島の中学生の思いが込められています。私たちはこの思いを歌声に乗せました。「群青」を歌い始めた時は、男女の音量のバランスや歌い方、そして歌声に乗せる思いがバラバラでした。しかし、クラス全員がこの合唱コンクールに本気で取り組み、お互いにアドバイスをし合ったり、どうすればよい合唱になるかをみんなで考えたりしました。練習では、音程がうまくとれなかったり、パート間のバランスをとることが難しかったりと、大変なことがたくさんありました。しかし、全員が最後まであきらめず練習してきたおかげで、学年グランプリ、そしてコンクール大賞をとることができたのだと思います。



コンクールを振り返って

変声期、そして思春期を迎えた中学生がクラス合唱に対して身体の面や気持ちの面などから難しさを感じるケースは、決して少なくありません。しかし、今回の校内合唱コンクールは、それぞれの学年がその成長段階に応じた素晴らしい合唱を披露し、大変聞き応えのあるものになりました。

各クラスが音楽の授業でコンクール曲の練習に取り組み始めたのは体育祭前後の時期です。その後数回の授業と学級練習（計6回）の中で、生徒たちはまず自分のパートの音を覚え、その後は指揮者・ピアノ・パートリーダーを中心に、クラスの個性や長所が生かされた合唱に仕上げていきました。

当日は、混声四部の難曲を説得力ある表現で堂々と聴かせた生徒会合唱で幕を開けました。体の成長に従ってどんどん自分の声が変わり始め、もっと美しく歌うことが困難になる時期であるにもかかわらず、集中的に練習に取り組み、学年を感じさせない素敵な合唱を聴かせた1年生。いずれもクラスの持ち味を生かした選曲をし、曲のもつ魅力をしっかり引き出して歌いあげた2年生。NHK全国学校音楽コンクールの課題曲など、少ない練習時間で歌うには難しい曲を、どのクラスも響きのある本格的な発声で歌えるよう努力し、見事な合唱を披露した3年生。そのすべてが心を打つものとなりました。すべてのクラスに拍手を送ります。（音楽科 段）



## ～通級指導教室を紹介します～

本校には、浜田市東部（5校）を対象とする通級指導教室が設置されており、今年で15年目を迎えます。担当者も2名配置され、子どもたちの指導に当たっています。

通級指導教室では、授業時間または放課後の時間に生徒が通級指導教室にやって来て、担当者と一緒に活動します。『今ある力をしっかりと使う』ということを大切に活動しています。活動内容としては、学校生活や日々の暮らしを振り返り、楽しかったことや困っていること、中学校卒業後の進路、将来の夢など様々なことを語り合っています。また、子ども自身が自己決定した活動に主体的に取り組み、担当者とのやり取りを楽しんだり、個人でじっくりと考える活動に集中して取り組んだりすることができます。そして、これらの時間を共に過ごすことで自己を見つめ、新たな自分に気付くことができます。

通級による指導を受けている生徒は、何らかの課題があり、それをきっかけとして通級指導教室とつながります。しかし、通級による指導を継続して受けている理由は、「通級に行くとこんなことができる。」という目的があって通ってきます。その思いを大切に通級による指導が日々の暮らしの“楽しみ”の一つになればと思います指導を行っています。（担当 森川）